学校だより

深 谷

令和６年４月３０日

５月号

横浜市立深谷小学校

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya

言葉の力

校長　　杉田　仁

満開の桜の花に歓迎されて始まった新年度も、新緑の季節を迎えました。新一年生も加わり、子どもたちは毎日の学校生活を生き生きと過ごしています。保護者の皆様、地域の皆様、ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、登校時の見守りをしていると、子どもたちが進んで「おはようございます」と元気に挨拶をしてくれます。その一言で、私の心は晴れやかになります。１つの挨拶、１つの言葉が、こんなにも自分の心を明るくしてくれることに改めて気づかされました。

一方では、「ださい」「死ね」などの否定的な言葉が携帯メールやスマホのサイトに書き込まれて、子どもたちがそのことでショックを受けて、学校に来られなくなったり、時には命を絶ったりするということが、ニュースなどで取り上げられています。現代では、『言葉』があまりにも軽々しく扱われ、多くの人々の心を傷つけているように思います。

イギリスの作家で『ジャングル・ブック』の著者であるラドヤード＝キップリングは、「言葉はいうまでもなく、人類が用いる最も効き目のある薬である。」と言いました。また、随筆家の斎藤茂太（歌人の斎藤茂吉の長男）は「言葉は薬にもなれば、凶器にもなる。」と言いました。二つの言葉は、同じような意味をもちます。薬は使う人が正しい使い方をすれば、病気やけがを治したり、命を助けたりすることもできますが、使い方を間違えると、凶器のように、命をも失う危険さえあります。それと同じように、『言葉』も使い方によっては、相手を癒すこともできるし、相手を傷つけることもあるのです。

私が教師になりたての頃、「子どもたちとの距離を縮めたい」という気持ちから、クラスの子に友達と会話するような口調で話をしていました。すると先輩教師から「子どもたちとの距離を縮めるのは、言葉ではなく心ですよ。あなたは教師になったのだから学生気分から抜け出して、子どもたちに丁寧に接しなさい。そのためには言葉遣いが大切ですよ。」と指導を受けたことがありました。その時、言葉の力や大切さを感じました。

人間は、相手からの温かい言葉を受け取ることによって、励まされ、勇気づけられ、自信を深めていきます。逆に、冷酷な言葉を浴びせられることによって精神的に落ち込み、自信をなくしてしまいます。また、たった１つの言葉が人間関係を崩したり、回復させたりすることもあります。私たちは、「ありがとう」「うれしい」「楽しい」「感謝しています」「すてき」「最高」「幸せ」「すごいね」「よかったね」「がんばっているね」など、相手を包み込むような温かい言葉をかけていきたいものです。

言葉の力を上手に使って、子どもたちの笑顔があふれる学校となるように心がけていきたいと思います。５月もどうぞよろしくお願いいたします。